

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております)

3354号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 横田真二：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座001110-8-47697

<https://www.zck.or.jp/>



壺阪寺の桜大仏(奈良県高取町) [写真提供:高取町]

も く じ

情随情情	フ政
報想報報	フォーラム 策
町村ご当地キャラしまん	「人が人を呼ぶ」好循環をつくる
共創で開く地域の未来	スポーツ庁参事官(地域振興担当)
町村ご当地キャラしまん	「人が人を呼ぶ」好循環をつくる
共創で開く地域の未来	〜人口4,200人の町・厚真町が挑む、
町村ご当地キャラしまん	持続可能なまちづくり〜北海道厚真町〜
共創で開く地域の未来	岡山県美咲町長 青野 高陽
町村ご当地キャラしまん	(12)(11)(10)(9)(6) (2)

コラム

25年つながった 地域づくりインターンのバトン

法政大学現代福祉学部教授 関 直也

この3月初旬に、地域づくりインターンの会25周年記念パーティーが開かれた。会には今年度派遣の現役学生から、社会人となったOB・OG、さらに、地域づくりインターン事業を提唱された宮口洞迪先生もお迎えでき、世代を超えて懐かしい顔ぶれがそろった。

この会の源流は、1996年、旧国土庁で試験的に行われた「若者の地方体験交流支援事業」にさかのぼる。地方の小都市や農山村で展開する地域づくりの現場が、都市の若者を受け入れ、U・J・インターンになくなぐねらいがあった。

地域おこし協力隊や関係人口という言葉がまだなかった当時、農山漁村に若者の姿は珍しく、派遣学生は「こんなところになぜ来たの?」と地元住民から必ず聞かれていた。若者たちは初めて訪れた地域で、暮らしの中に飛び込んで、住民とともに農作業に汗を流したり、行事やイベントを手伝ったりして、短期間ながら交流を深め、立場を超えてお互いが大いに刺激を受けた。

しかし、国の事業は2力年で中断し、参加学生と受入地域の双方から、このような良い

出会いの機会を続けよう、と2001年に立ち上がったのがこの会である。会の目的は、都市部の学生たちと農山漁村の地域の人々を結ぶ「きっかけづくり」、いわば地域の人々と学生との「お見合い」に置かれている。そして、現場に赴き新鮮な体験を得た学生有志が、その想いを後輩たちへと、次年度の事務局を担う「学生事務局」により運営を続けてきた。

会の継続性を考えると、学生の反応に委ねる運営に危うさもある。実は、学生事務局の担い手がいなくなったら、この会は休会にしてよい、と定款にも「そり書き込んである。初心が途絶えれば、無理に会を続ける必要もないのだ。それにもかかわらず、25年の月日を重ねてバトンがつながり、その実績は、受入地域のべ27団体、学生約550人、国がめざしたねらいが現実のものとなった今、学生たちが地方の暮らしに出会い、農山漁村を大事に思う人材がこれほどまで育ったことを誇らしく思う。

写真キャプション

奈良県高取町にある壺阪寺。2026年大河ドラマ「豊臣兄弟」の主人公豊臣秀長公の命により戦乱期に荒廃した寺を復興された。約400年間秀長公の像を守っている。春には境内の桜が咲き広がりが、大仏様は桜に包まれる。まるで桜の中で微笑んでいるようなその姿は「桜大仏」と呼ばれ、春だけのやさしい絶景は、訪れる人々の心をそっと和ませてくれる。

スポーツによる地方創生・まちづくり

スポーツ庁参事官（地域振興担当）

1. はじめに

日本中を感動の渦に巻き込んだミラノ・コルティナオリンピック・パラリンピック競技大会では、日本のチームや選手が活躍することで国民に夢や希望を与え、スポーツのチカラを感じることも、スポーツが社会に還元できる価値を再認識しました。これを機に、国民のスポーツへの関心はますます高まることも、地域のスポーツの環境にもポジティブな影響をもたらすことが期待されます。

2. スポーツによるまちづくりの推進

スポーツ庁では、2021年度より、スポーツによる地方創生・まちづくりに積極的に取り組む自治体と連携するため、「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰（通称：「スポまち！表彰」）」を開催しています。

「スポまち！表彰」は、地域の少子高齢化や地域住民の健康増進、地域の過疎化、地域経済衰退などの地域が抱えるさまざまな社会課題をスポーツのチカラを活用し、解決を図



▲全体写真

政 策

るための各自治体のまちづくり計画を表彰させていただくものです。『経済・環境・健康・交流・ローカルブランド』の5つの価値に基づき、持続可能性がある取組計画となっているかという点を評価基準としながら、優良自治体を選定します。さらに優良自治体の中から特色ある取組計画の自治体に対して特別賞を授与します。

3. 「スポまち」表彰2025」開催レポート

2025年11月18日に都内で表彰式典を盛大に執り行いました。

第一部のプログラムでは、自治体の首長様や関係者をお招きし、スポーツを活用したまちづくりに取り組む18の自治体を表彰しました。表彰自治体の中から特色ある取組計画の自治体に対して授与する特別賞には、長官特別賞は静岡県静岡市、ゲスト特別賞は鹿児島県指宿市、10周年記念特別賞は茨城県笠間市、茨城県境町を表彰しました。特別ゲストである増田明美さんの受賞インタビューでは、自治体の皆さまから取組の推進について力強い抱負をお話いただいたとともに、スポーツによるまちづくりに取り組もうとしている自治

体を後押ししていただきました。

第二部では沖縄SV株式会社の代表取締役CEOの高原直泰氏をお迎えし、「沖縄SVの地域創生の取り組み」をテーマにご講演いただきました。「スポーツ＆〇〇の可能性は無限大、地域の課題解決をサポートできる」といった沖縄SVが取り組むスポーツによる地方創生について熱く語っていただきました。

式典終了後、受賞自治体の皆さまが交流できる場となる名刺交換会を開催しました。各自治体関係者たちが顔を合わせながら、それぞれの取組について意見交換が行われるなど、「スポまち」表彰」による横のつながりが広がったのではないのでしょうか。

4. 「スポまち」表彰2025」受賞自治体の取組紹介

「スポまち」表彰2025」では6つの町を含む18自治体が受賞されました。このうち3つの町の取組をご紹介します。各自治体の特色を活かしたスポーツによるまちづくりの取組にご注目ください！

【自治体名】 岩手県岩手町

【取組名称】 まちに笑顔！女子サッカー

まちに笑顔！女子サッカーによる地域活性化プロジェクト スポまち！表彰2025 岩手県岩手町

<目標> 計画期間：～令和10年3月31日

サッカー移住者による地域活性化

【町主催イベント参加人数】	R7:1,000人	⇒	R10年:1,500人
【町営施設利用件数】	R7:132回	⇒	R10年:200回
【新規事業への参加人数】	R7:10人	⇒	R10年:50人
【交流事業の開催】	R7:1回	⇒	R10年:10回

<PRポイント>

岩手町とI.S.Pが包括連携協定を締結。県内外の女子サッカー希望者の受け入れと、それに伴う移住・定住によって地域の活性化を図っている。

《充実した環境》

- 女子スポーツの地域基盤
- 「学生寮」完備
- 町をあげての就労・定住支援（セカンドキャリア・アップ）

<現状・課題>

人口減少や少子高齢化の影響により、スポーツ人口減少をはじめとする様々な課題がある。

- ホッケー競技者数は減少の一途を辿っており、中学生においては町の合同チームを結成し大会へ出場している状況。
- 県内初のホッケー競技場と人工芝グラウンドを有しており、更なる活用促進を図る必要がある。
- 東北新幹線「いわて沼宮内駅」の利用客数減少に伴い、駅を中心とした街の活性化に苦慮している。
- サッカー強豪地域だった面影はない。現在中学校・高校のサッカー部は廃部、小学生のクラブチーム1つのみ。
- 未就学児童及び小学生の肥満率が岩手県内第1位となっている。

<総合的な取組内容>

「スポーツ人口増加」「肥満率の低下」「新規事業展開による活性化」などを促進するため、岩手町とクラブチームは、連携して以下のような取組を実施する。

スポーツ振興・健康促進 イベント企画・スポーツ教室開催	ローカルブランド力向上 地元企業就労	施設利用促進 交流事業の推進	地域の活性化 新規事業展開
---------------------------------------	------------------------------	--------------------------	-------------------------

<継続的な取組を確保できる体制（図）>

岩手町（町職員として就労、地域おこし協力隊、学校支援指導員、地元企業への就職斡旋、古民家活用促進、交流設備の整備）とI.S.P FCゼブラレディーズ（サッカー女子の留学選手定住、交流試合支援/賛助企業）が連携し、地域の活性化を促す。また、スポーツ協会、観光協会、商工会、地元企業（従業員確保、新規事業）とも連携している。

<セルフチェックシート>

経済 5、ローカルブランド 5、環境 5、健康 6、交流 6、現在（赤線）、将来（黄線）

問合せ先・電話番号
岩手町教育委員会 社会教育課
TEL：0195-65-2111（内線343）

【フォローアップ欄】 令和7年度以降における計画の進捗状況

政 策

カーによる地域活性化プロジェクト
【取組計画】岩手町では、2025年2月に町を拠点に活動する女子サッカーチーム「FCゼブラレディース」と包括連携協定を締結し、選手の移住・定住やセカンドキャリア形成を支援し、地域とともに女子スポーツを軸とした持続可能なまちづくりに取り組んでいます。また、「スポーツ人口増加」「肥満率の低下」「新規事業展開による活性化」を促進するため、岩手町とクラブチームが連携を図り、イベントの企画やスポーツ教室の開催、地元企業への就労、交流事業の推進などに取り組み、スポーツを通じた地域活性化をめざしています。

【自治体名】宮城県利府町
【取組名称】弓とともに歩んだ町・利府町「弓道スポーツ文化ツーリズム」プロジェクト！
【取組計画】利府町では、2024年3月に「スポーツによるまちづくり」宣言を行い、町にゆかりのある「弓道」を基軸とした新たなスポーツ文化の創造にチャレンジしています。2025年度には弓道文化の普及と武道ツーリズムの推進を図ることを目的とした文化体験型コンテンツを造成し、商品開発に向けて地域一体となって取り組んでいます。「スポーツ×歴史文化×観光」の連携により、町の課題をマルチに解決し、インナーとアウトアースポーツの両輪で「するひと」「みるひと」「ささえるひと」の多様な関わりによる、賑わいのあるまちづくりを実現していきます。

スポーツ！表彰2025
宮城県利府町

弓とともに歩んだ町・利府町～「弓道スポーツ文化ツーリズム」プロジェクト！

<目標> 計画期間：～令和9年3月31日

- ①地域への関心度の向上 ➡ 体験参加者へのアンケートを実施し「利府町への関心が高まった」と回答した方が80%以上
- ②町SNS(インスタグラム)のPV数増加 ➡ 体験紹介動画のPV数 1,000PV以上
- ③体験プログラム及び弓道体験会に関わった町民の数の増加 ➡ 運営ボランティア協力人数 延30名以上

<PRポイント>

- ◎町にゆかりのある「弓道」を基軸とした新たなスポーツ文化の創造にチャレンジ！
- ◎「スポーツ×歴史文化×観光」の連携により、町の課題をマルチに解決！
- ◎インナーとアウトアースポーツの両輪で「するひと」「みるひと」「ささえるひと」の多様な関わりによるまちづくりを実現！

<現状・課題>

利府町は2002年FIFAワールドカップなど多数の大規模スポーツ大会の開催場所となってきたが、「利府町独自のスポーツ文化」と問われると心もとない感があった。仙台空港から仙台港から30分圏内とアクセス性に優れ、町内には3つのR駅と4つのインターチェンジがあり、優れた立地性に恵まれているものの、既存資源を生かしたインバウンド観光ルートができていない。

<総合的な取組内容>

【アウトアース施策】文化体験型武道ツーリズムコンテンツの造成

- ①お呈茶カフェと“利府を知る入口”体験
利府町に伝わる弓文化の歴史や精神性にふれる“入口体験”
- ②「利府の弓がよみがえる物語」～新たなスポーツ文化の創造に向けて～
利府町の弓文化の再発見から「利府スポーツ流鏑馬大会」創出に至るまでの背景を映像で可視化
- ③利府町の歴史文化×伊達文化 × 伊達弓道：しまたり体験プログラム
伊達家に伝わる弓術を体験用にアレンジした『伊達印西派弓術体験プログラム』の提供
- ④伝統工芸ワークショップ
- ⑤歴史コスプレ × フォトセッション
- ⑥地元弓道強豪校との交流（利府高校等）
競技を媒介とした異文化コミュニケーションの場を創出し、教育に新たな付加価値を生み出す

【インナー施策】ものふ会の設立

上記コンテンツの実施に町内住民、弓道経験者等に参加いただき、

- ①弓道場の管理
- ②ツアーのランドオペレータ
- ③歴史伝承
- ④弓道指導

などマルチに対応できる「(仮称)ものふ会」の設立に向けた足がかりとする。

【フォローアップ】令和7年度以降における計画の進捗状況

<継続的な取組を確保できる体制(図)>

<セルフチェックシート>

問合せ先・電話番号
利府町スポーツ振興課
 022-767-2190

政 策

寒川町ストリートスポーツを活用したONLY-ONEのまちづくり

スポーツ！表彰2025
神奈川県寒川町

【目標】 計画期間：～令和13年3月31日

関係人口獲得による持続可能なまちづくり

目標：KPI「ストリートスポーツパークの利用者数」現状値0人→ 目標値35,341人（2030年）
効果：【地域経済の活性化】【地域ブランドの力の向上】【チャレンジする子どもの増加】

【PRポイント】

ONLY-ONEのまちづくり

- ①トップアスリートが寒川町に集まっている（すでに世界チャンピオンが4人移住。日本チャンピオンも複数移住）
- ②寒川町でしかできない地元アスリートと連携した事業展開
- ③世界でも唯一の屋内スケートボードストリートとBMXフラットランド専用施設の整備

【現状・課題】

今後、人口減少・少子高齢化が加速する中、持続可能なまちづくりが必要。そのため、寒川町特有の強みとなりつつあるストリートスポーツを活用して関係人口を獲得する。効果的に関係人口を獲得できるように新たな施設整備＆事業展開が必要。

【総合的な取組内容】

【取組】

- ・新たな公園にストリートスポーツ施設を整備
- ・地元選手と連携したイベント開催
- ・世界大会、日本大会の開催 など



屋内のスケボーとBMX施設



地元選手連携イベント

【効果】

- ・世界トップ選手への育成
- ・誰もがストリートスポーツを体験できる場づくり
- ・寒川町の認知度向上 など

【目指す姿】

ストリートスポーツの聖地化

【目標】

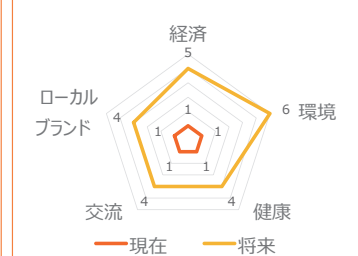
関係人口獲得による持続可能なまち

【フォローアップ欄】 令和7年度以降における計画の進捗状況

【継続的な取組を確保できる体制（図）】



【セルフチェックシート】



問合せ先・電話番号
寒川町町長室特命担当
TEL 0467-74-1111（代表）

▲神奈川県寒川町

LY-ONE」の魅力を創出していきます。

5. 未来

今年（第20回）アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）及び第5回アジアパラ競技大会（2026/愛知・名古屋）が開催され、国民の皆さまのスポーツへの関心が高まると見込まれます。

今回表彰した地域だけでなく、日本全国で「スポーツ・健康まちづくり」の取組が広がっていくことを期待するとともに、スポーツ庁としても創意工夫と熱意溢れる各自治体の取組を後押ししていきます。

皆さまもスポーツによる「地方創生・まちづくり」に取り組んでみませんか？スポーツ庁ではスポーツによる「地方創生・まちづくり」に取り組む皆さまの取組を引き続き応援します！

スポーツ庁 参事官（地域振興担当）付
地域振興係
TEL 03-5253-4111
(内線3931)
E-mail: stiki@mext.go.jp

車両共済(保険)のご案内

この車両共済(保険)は、町村生協の自動車共済で補償する対人賠償、対物賠償、限定搭乗者傷害等に加え「ご自身のおクルマの補償(車両保険)」を追加する制度です。お車が衝突した場合や台風・いたずら・盗難など偶然な事故で損害を被ったときに、共済(保険)金をお支払いします。

●お見積りのご請求・お申込み・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください●

株式会社 千里 (取扱代理店)

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-32 全国町村会館西館内
●ホームページアドレス <https://www.chisato-ag.co.jp/>

お電話の際には、車検証をお手元にご用意ください

(受付時間：祝日、年末年始を除く月～金 午前9時30分～午後5時)

TEL 0120-731-087 FAX 03-3519-7325

- 「車両共済(保険)制度」は、全国町村職員生活協同組合と損害保険ジャパン株式会社とが集団扱契約を締結し、実施しているものです。
- 集団扱としてご契約いただけるのは、保険契約者および被保険者が損保ジャパンの定める条件を満たす場合のみとなります。このご案内は概要を説明したものです。詳細については、取扱代理店(千里)までお問い合わせください。

〈車両保険引受保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社

[SJ23-05507 (2023.8.1作成)]



▲浜厚真海岸に集うサーファー

北海道 あつ ま ちよう 厚真町

「人が人を呼ぶ」好循環をつくる
人口4、2000人の町・厚真町が挑む、
持続可能なまちづくり

1. なぜこの町に人が集まるのか？（厚真町の概要）

北海道屈指のサーフスポットとして知られる厚真町。太平洋に面し、工業都市・苫小牧市の東隣に位置するこの町には、豊かな森林と田園風景が広がっています。

基幹産業は農業ですが、「北海道＝豪雪寒冷」というイメージに反して積雪量は少なく、四季を通して過ごしやすい気候が特徴です。

交通のアクセスにも恵まれていますが、北海道の空の玄関口である「新千歳空港」までは車で約30分。町内に位置する苫小牧港東港、および隣接する西港からは、本州主要都市へ向かうフェリーが就航しています。さらに日高自動車道「厚真インター」を利用すれば、道都・札幌市をはじめ、道内各地へスムーズに移動可能です。陸・海・

空すべてのアクセスにおいて高い利便性を誇ります。

今回は、この人口約4、2000人の小規模自治体が、「人」にスポットを当てて挑む、町の未来をかけた取組を紹介します。

2. 「減る」ことを恐れず、「質」を高める（持続可能なまちづくり）

人口減少、少子高齢化、担い手不足。これらは全国の小規模自治体に共通する現実であり、厚真町も例外ではありません。

しかし、「人が減るから地域が縮む」と悲観するだけで良いのでしょうか。地域の価値は人口規模だけで決まるものではありません。暮らしの手触り、豊かな自然資本、食やエネルギー、そしてコミュニティの結びつき。こうした「地域の資産」をどう磨き、次の世



フォーラム



▲ローカルベンチャースクール

代へ手渡ししていくかが問われていま
す。

私たちが考える「持続可能なまちづくり」とは、単に事業を増やしたり、一過性のイベントで賑わいを作ったりすることではありません。地域が自走する仕組みをつくり、関係人口を育て、暮らしと仕事循環する状態を積み上げていくことです。

その中心にあるのが、10年目を迎えた「ローカルベンチャースクール」と、令和7年度より本格始動した「2地域居住」の取組です。

3. 失敗が「資産」になる場所
（ローカルベンチャースクール）

「厚真町ローカルベンチャースクール」は、本町を拠点に起業をめざす人

材を発掘・応援するプログラムです。

地方の起業支援は、しばしば「雇用創出」や「空き店舗活用」などの文脈で語られます。しかし、私たちのめざす価値はそれにとどまりません。最大の意義は、地域課題を「誰かが解決してくれるもの」から、「自分たちが事業として解決できるもの」へと捉え直す点にあります。

「善意」だけに頼るのではなく、課題解決をビジネスとして成立させ、利益と社会的価値を両立させる。そうして地域に必要な機能を着実に実装していくのです。

もちろん、地方での起業には市場規模の小ささや資金調達難しさといった壁があります。

一方で、顔の見える関係性、豊富な一次産業資源、そして地域の暮らしの中で素早く仮説検証できるという強みもあります。最初は小さくとも、改善を重ねながら持続可能な形へ育てていく余地が大きいのです。

この地域特性を前提に、町が挑戦者の「夢」と「思い」を共有し、ともに事業を育てる場。それがローカルベンチャースクールです。

スタートから今年で10年目を迎え、これまでに全国各地から多くの挑戦者が集まり、町内で20名以上の起業家が誕生しました。

地域おこし協力隊（起業型）の選考会を兼ねていますが、本質は、「一人ひとりの挑戦が地域と出会い、双方の

可能性を開く場」です。審査では、行政、地域事業者、金融機関、企業家など10名以上のメンターが同じテーブルを囲み、以下の「4つの約束事（グラウンドルール）」のもとで対話を重ねます。

① 『その人の幸せにつながる選択を大切にする』

その選択が、その人の人生にとって、より良い道かどうかを最優先に考えます。

② 『次の一歩をどう踏み出すかを一緒に考える』

採択・不採択の結果にかかわらず、次の行動につながる可能性を大切にします。

③ 『その人の挑戦が自分軸につながっているかを確かめる』

外からの期待や正解ではなく、自分自身の内なる衝動から生まれた挑戦であるかを見つめます。

④ 『成功しそうかより、失敗を意味ある経験にできるかを見る』

失敗を学びに変え、次の行動の糧にできるかを問いかけます。

可否を超えて「挑戦して良かった」「語って良かった」と思える経験を提供すること。このプロセス自体が、まさに「挑戦する文化」を根付かせていきます。

実際に、町内では今までになかったビジネスや、新しい人の流れ、文化が

着実に芽生えています。

ここで、町内で新たに生まれた特徴的なローカルベンチャーたちを紹介いたします。

森と生きる

馬搬による環境配慮型林業（西替馬搬）

馬搬により自然と共存する環境にやさしい林業を運営（馬搬とは伐採した木を馬で運ぶ林業）。馬で畑を耕す馬耕、小学生向けの野外教室、馬の魅力を知ってもらうイベントなども実施
・地域材を活用した製材と暮らしの提案（株式会社木の種社）

「地域にある資源でやっていく」「森を引き継ぎ将来に残す」「木を活かす技術を残す」の3つをテーマに、町内



▲馬搬作業の様子

フォーラム

にある木で持続可能でちょっと楽しい暮らしを提供する製材所

食を届ける

・アニマルウエルフェアに基づく平飼いの卵とレストラン（10a株式会社）
鶏の平飼い（世界基準のアニマルウエルフェア）による「平飼いの卵（オーガニック鶏卵）」の販売・加工と卵を産み終えた親鶏を使った料理を提供するレストランなどを経営

・循環型畜産ビジネス（GOODGOOD OD株式会社）

環境に負荷の少ない放牧和牛生産によりグローバル市場を見据え、生産・加工・販売まで一貫して行う持続可能な循環型畜産ビジネスを運営

地域をつなぐ

・公共交通を補完する新たなモビリティ（ミーツ株式会社）

コミュニティの拡大で、公共交通インフラの限界・高齢者の免許返納・観光客の足・見回り看護・高齢者のお手伝いなど地域課題を解決する新たなモビリティビジネスを展開中

・モンゴルの遊牧文化の体験（株式会社アヨンガ）

自身も幼いころ遊牧生活をしていた中国・内モンゴル自治区出身者が、モンゴル伝統の住居「ゲル」や羊の放牧など、内モンゴルの暮らしを日本でも体験できるキャンプ場を整備中

このほかにも、フランス人のパン職

人、厚真町特産ハスカップのピネガー製造、自ら輸入したコーヒーの焙煎、町内産木材を利用した木材加工、NGOからの燻製職人、渓流釣りガイド、サラブレッド販売情報サイト運営、アートデザイナー、個人貿易商、映像カメラマン、ドローンでの森林管理：etc、多くのプレーヤーが活躍しています。

4. 「活躍人口」による新しい価値の発見（二地域居住の推進）

ローカルベンチャーで培った土壌を活かし、厚真町が新たに推進するのが「二地域居住」です。

これは、都市と地方など複数の拠点を行き来するライフスタイルを普及させ、地域の活力維持と、個人の豊かな暮らしの両立をめざすものです。具体的には以下の効果を期待しています。

- 1) 関係人口の拡大による「人の流れ」の創出
- 2) 地域の担い手確保および課題解決
- 3) 移住・定住への「人口」の拡大
- 4) 多様化する暮らし方・働き方への対応
- 5) 災害等のリスク分散による生活継続性の向上

しかし、これらはあくまでも手段です。

厚真町における二地域居住は、単なる都市と地方の往来ではありません。

町での労働・消費・投資を通じて貢献してくれる人々を「活躍人口」と定義しました。場所にとらわれない働き方・暮らし方を提供し、その結果として新しい価値観やビジネスが生まれ、地域の活性化につながることをめざしています。

この推進において最大の鍵となるのが、前述のローカルベンチャーに代表される「多様で多彩な人材」です。現在、本町には「人が人を呼ぶ」好循環が生まれており、彼らの存在が新しい人々を惹きつける磁力となっています。また、国の制度（地域活性化起業者）を活用した副業人材を「活躍人口」として積極的に受け入れており、行政に足りない部分を、民間企業の持つスキルを借りて課題解決を図っています。

5. 日常を「価値」に変える挑戦（おわりに）

令和8年度には、町と民間企業の共同出資による『仮称（まちづくり）会社』の設立を予定しています。新会社では、コンシエルジュ機能や関連施設の運営・管理、空き家の活用などを担い、二地域居住希望者のニーズに迅速に心える体制を構築します。

私たちが何気なく見過ごしている日常風景、農家の営み、そしてローカルベンチャーの熱気。これらを都会の人たちにとつての「価値ある素材」として再定義し、地域課題解決に資する持

続可能なビジネスモデルへと昇華させていきます。

厚真町はこれからも、挑戦者と共に「変化」を楽しみ、しなやかに進化するまちづくりを続けていきます。

北海道厚真町

地方創生担当 理事 大坪 秀幸



▲厚真町に集う挑戦者たち

休刊のお知らせ

3月30日付の町村週報につきましては、休刊とさせていただきます。第3355号は4月6日付の発行となりますので、ご了承の程、よろしくお願いたします。

情 報



町村 かわら版

JR双葉駅東口に商業施設「めめぐるふたば」オープン 生活環境改善、にぎわい創出に期待

福島県双葉町

福島県双葉町がJR双葉駅東口の町立体育館跡地に整備した商業施設は14日、オープンした。飲食店3店舗が入る。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故発生後、駅前飲食店ができたのは初めて。町の復興に向けて課題となっている生活環境の改善や、にぎわい創出が期待される。現地での記念式典が行われた。

入居するのは「串と鉄板だるま」(営業時間午前11時～午後9時、日曜・祝日休み)、「CAFE FUTAABA」(同午前11時30分～午後9時、月曜休み)、「居酒屋こんどこと双葉店」(同午前10時～午後3時、午後5時～午後9時、日曜・水曜休み)の3店舗。

約1370平方メートルの敷地に鉄骨平屋の3店舗が連なる。来店者や住民らが交流できるよう敷地内に広場を設けた。町は今後、必要に応じて隣接地に商業施設の拡充を検討する。

記念式典では伊沢史朗町長が「町に新しい芽が育ち成長していく姿が見えるよう、今後も復興を進めていくとあいさつした。坂本竜太郎衆院議員(自民、福島県4区)、森雅子参院議員(福島県選挙区)、若本久人町議会議長らが祝辞を述べた。関係者がテープカットし、施設の誕生を祝った。式典終了後、各店舗に次々と町民らが訪れた。町内に住む無職区分信一さん(76)

は「生活の利便性が高まる。町がにぎわいを取り戻してくれたらうれしい」と話した。今回オープンした商業施設の愛称は「MEMEGURU FUTAABA(めめぐるふたば)」に決まった。記念式典の席上、伊沢史朗町長が発表した。

(2026年3月15日・福島民報)

デマンド交通、観光客に活路 若狭町「わくわくタクシー」美浜町「チヨイソコみはま」 持続可能な事業へ利用拡大狙う

福井県若狭町・美浜町

電話やネットで予約する車の乗り合いサービス「デマンド交通」。福井県若狭町は4月1日から、デマンドタクシーの運行区域を町北部の常神・海山を含む全区域に拡大し、利用促進を目指し町民以外の観光客らにも対象を広げることを決めた。美浜町も同日から、3年間の実証運行を終えたデマンドバス「チヨイソコみはま」の本格運行を開始する。運行経費の確保など課題も指摘される中で、デマンド交通の将来的な事業継続に向けた両町の工夫を探った。

若狭町では2016年から、デマンドタクシー「わくわくタクシー」を常神・海山を除く町内で平日運行している。しかし、利用者は年々減少傾向にあり、本年度は2月末時点で6500人と昨年度より約1500人少ない。町担当者は「若狭町で顕著に進む人口減と高齢者の免許保有率が上昇傾向にあることが要因」と推測する。

事業継続には利便性の向上が必須で、町は4月1日からレイクヒルズ美方病院(同町気山)・常神までの町営バスが利用者減少などで減便するのに合わせて、バスの運行ルートに常神・海山をタクシートの運行区域に加える。平日に加え土日祝日も町内全域で運行することも決めた。変更点をいかに多くの町民に周知できるかが今後の課題だ。

美浜町は2023年から町内全域で実証

運行してきたデマンド交通「チヨイソコみはま」の利用者が右肩上がり傾向に推移している。丹生、新庄、日向の3路線のコミュニティバスの利用者減少を背景に、「最適な公共交通の方法を見いだそうと」運行してきた。

(2026年度コミュニティバス利用者が8505人だったのに比べ、本年度のチヨイソコみはま利用者は1万8564人(見込み)と、実証前後で1万人以上増加した。

一方、予約に必要な会員登録をしたのは昨年12月時点で1125人。利用者数と比較するとリピーターが非常に多い傾向にあると分かる。デマンド交通のメリットが住民に十分に理解されず登録者数が伸び悩んでいる現状がうかがえる。

両町とも、持続可能な事業実施に向け、観光客を重要な利用者ターゲットに位置づける。若狭町では、高齢者や交通弱者の生活を支える手段としてだけでなく、町外の人にも観光地や民宿への移動などで使ってもらえるよう、4月1日から町民限定だった利用制限を撤廃する。

今後、町内のJR小浜線の駅や、若狭三方五湖観光協会、民宿などの協力を得て、チラシ掲示やホームページなどで観光客に積極的にPRしていく。町担当者は「住民の利便性を確保しながら、観光地の訪問者の増加にもつなげる」と意気込む。

美浜町は、敦賀市と美浜町を結ぶ福井鉄道の路線バス「菅浜線」の廃止に伴い、水晶浜や民宿などが位置する若狭湾沿いの東地区と町役場周辺を運行区域として昨年4月から提供している別のデマンド交通の愛称を「美浜ブルーライン」と命名。青を基調とし、美浜の美しい海岸線を表現する人目に付くデザインの新車両を導入し、美浜駅を降りた観光客の利用拡大を狙う。今年2月の新車両お披露目式で町議会議員は「ぜひ利用を拡大するにはどうすべきかを考え、よりよい地域の足として発展させていく」と力を込めた。

(2026年3月16日・福井新聞)

持続可能な医療体制確保 遠隔オンライン診療で協定 熊本県産山村と小国公立病院

熊本県産山村

産山村と小国公立病院(小国町)は16日、村診療所で遠隔のオンライン診療を実施する連携協定を結んだ。村は、小国公立病院が持続可能な医療体制を確保するために進める医療DX(デジタルトランスフォーメーション)に加わる。オンライン診療は月1〜2日程度を予定。等身大の姿が映る55型モニターを用いる。

産山村の医療機関は村診療所1カ所のみ。診療は、熊本市在住の診療所長のほか、阿蘇医療センター(阿蘇市)、熊本機能病院(熊本市)など県内外5機関の医師が輪番制で週5日担当してきた。このうち大分県竹田市の病院が3月末で医師派遣を終えるため、村が小国公立病院に要請した。

この日、村役場で締結式があり、井雄一郎産山村長は渡邊誠次小国町長と協定書を交わし、「平日は診療所が開いていて、遠隔を含め医師に診てもらえる安心感は村民にとって薬にもなる」と述べた。

小国公立病院は2023年7月、町内のサテライト診療所に医師が常駐してオンライン診療を開始。24年2月からは移動診療「医療Maas(マース)」の一環として、オンライン診療車「柴三郎号」を運行している。柴三郎号は小国町、南小国町に加え、産山村へ巡回する計画も進んでいる。(宮崎あずさ)

(2026年3月17日・熊本日日新聞)

47 行政
本コーナーの記事は施策立案にも役立つ47行政ジャーナルの許諾を受けて掲載しています。
<https://47gyosei.jp/>

町村

ご当地キャラじまん

Vol.188

特産品だけじゃない!

文化・歴史を身にまとして観光大使!!

ご当地自慢のおいしいものや伝統行事を身にまとい、体を張ってPRしているご当地キャラたちを紹介するコーナーです。

北海道小清水町

青森県東通村

宮城県柴田町

オホーツク海をのぞむ花と野鳥のまち・小清水町では、郷土料理として古くから伝わる「でんぶんだんご」があります。これは、町の特産品「じゃがいも」のでんぶんと煮豆をこねた生地を焼いたもので、この「でんぶんだんご」をモチーフにしたキャラクターが「でん坊」です。頭にはバンダナを巻き、「だんご」と「じゃがいも」の球形を模した体形に、目・鼻・口は具材である金時豆です。2013年6月22日に道の駅で開催された「SL歓迎はなやか祭 in 小清水」でお披露目されましたが、この時はまだ名前が決まっておらず、同年7月の「ふるさとまつり」で名前が公表され、10月3日には、架装王の部署「じゃがいもでんぶん課」の特命職員として任命されました。これからも、町の基幹産業である農業のイメージアップと町のPRのため、各種イベント等に参加していきます。

小清水町公式キャラクター

でん坊



小清水町役場じゃがいもでんぶん課主事。7月28日生まれの子。「でんぶんだんご」作りが得意で、好物ももちろん「でんぶんだんご」。時々、「でんぶんだんご」を焼くときに使うヘラを手に持っている。

東通村イメージキャラクター

かんだちくん

青森県東通村



青森県最北東端の村・東通村のイメージキャラクター「かんだちくん」は、1995年に村のイベントイメージキャラクターとして公募によって誕生しました。尻屋崎の「寒立馬(かんだちめ)」をモチーフにして、頭のてつぺんの「尻屋崎灯台」がチャームポイントです。2018年には、クラウドファンディングを活用した、実体化、プロジェクトにより、パワーアップした「かんだちくん」として登場し、村の特産品や観光、郷土芸能をPRしながら、村の魅力を全国に発信しています。2026年7月には、白亜の灯台「尻屋崎灯台」を舞台に、「灯台ワールドサミット in 東通」が開催されます。国内外の灯台ファンが集つこの特別なイベントを「かんだちくん」も全力で盛り上げます。



1月7日生まれの子。どのような環境にも対応するたくましさを持っている。大きなお腹には懐かしさがたくさん詰まっている(はず)。尻屋崎の学生が大好き。趣味はかけっこ。「シロタンキンポウゲ」は嫌いなので、食べない。

花のまちイメージキャラクター

はなみちゃん

宮城県柴田町



7月7日生まれ。桜の妖精と柚子の妖精の間に生まれた花の妖精。いつも笑顔で、明るく前向き。特技は誰とでもすぐ仲良しになれること。柚子風味の食べ物や飲み物が大好き。素早い動きはちょっと苦手。

「はなみちゃん」は、「船岡城址公園の桜」や「白石川堤一目千本桜」で有名な「花のまち柴田」の公式キャラクターです。頭には町の花「桜」をあしらった、体は町の特産品「柚子」でできていて、2012年7月7日に「はなみちゃん」が大好きな「船岡城址公園」でお披露目されました。「船岡城址公園」では、桜まつり(4月)や紫陽花まつり(6月~7月)、曼珠沙華まつり(9月~10月)、ファンタジーイルミネーション(12月)、季節の花の展示即売会など、年間を通して楽しむ、「はなみちゃん」もイベントの際には、応援にかけつけ、町民や観光客との交流を楽しんでいます。これからも「はなみちゃん」は、四季折々に花で彩られる「花のまち柴田」をPRしていきますので、ぜひ「はなみちゃん」に会いに来てほしいです。

随 想

美咲町といえば、「たまごかけごはん(TKG)」で知られる洋画家・岸田劉生(の父)が愛好したとされることにちなみ、TKG専門店「食堂かめっち。」が連日にぎわいをみせています。

美咲町は岡山市から車や汽車で北



共創で開く地域の未来

岡山県美咲町長

青野 高陽

に約1時間のところにあり、人口12,500人。平成17年に3町が合併した町で、中国山地の山あいにある典型的な中山間地域です。

令和2年の国勢調査では人口減少率が9.6%と岡山県でワーストになりました。そこで町は人口減、歳入減を前提に地域の新たな社会づくりをめざす「賢く収縮するまちづくり」を振興計画や行財政改革大綱で打ち出し、大胆な施設の集約に乗り出しました。

約7割を国がみてくれる合併特例債の発行期限(令和6年度末)をにらみ、5年度以降、49施設83棟(延床面積計52,000㎡)を売却したり売却。ハコモノを取り壊し、機能をまとめていきました。

例えば、町中心部に昨年5月オープンした多世代交流拠点、役場、公民館、図書館など6つの機能があがる複合エリアで、建設前に比べ利用者数は公民館は7倍、図書館は4倍、直売所の物産センターの売り上げは

3割、それぞれ増えました。

旧旭町の小学校跡には、町総合支所、図書館、子ども第3の居場所、診療所、多目的ホールなど8つの機能を集めました。いずれも生活に必要な機能を集めることで住民の利便性を高めるとともに、維持管理費の低減につなげていきます。

令和5年には岡山県下に先がけて小中一貫9年制の義務教育学校「旭学園」、同6年には「柵原学園」を相次ぎ開校させました。放課後は住

民ボランティアが学習をサポートし、第3の居場所や児童館で遊んでいます。

同時に進めたのは、地域運営組織「小規模多機能自治」です。自治会の枠を超え町内13地区で、いわば「むらの困りごと解決隊」をめざしています。まずは住民全員アンケートの質問づくり、配布、回収、集計、分析をし、結果をもとに地域みらい計画をつくり、町が小規模多機能自治組織として認定しています。

アンケートの対象は小学校4年生からという地域も出てきました。回収率は80%〜90%台になり、パソコンが必要になる集計からは子育て中のお母さんや学生が加わってきます。

「地域の困りごと」で「ごも上位に挙がる草刈りでは、より安全に草刈りができる住民を増やそう」とイベント形式の「草刈り王選手権」が開かれたり、独り暮らし高齢者の安否確認のための「黄旗運動」、地域住民と小学生がいっしょに空き家の片

づけといった活動が行われるようになり、最近では小学生からも「しようきぼたきのうじちで…」という言葉が聞かれるようになりました。みけんにしわを寄せて地域の未来を嘆くのではなく、人の力と地域の絆で「地域力」が上がっていることを実感しています。あえて「東京ではできないこと」をさらに進めていこうと考えています。

かつて視察先としてはまったく無縁だったこのまちにも令和5年以降、国内外から義務教育学校や公共施設マネジメントに約400件の視察がありました。特に公共施設のダウンサイジングはごも必要性はわかっているがなかなか進まず苦慮されていることを痛感します。

人口減少率が岡山県でワーストだった本町が令和6年にいわゆる「消滅可能性自治体」から脱却し、一時は出生率が2.23を記録、「子育てにおすすめのまち」といったネットの全国ランキングでも3位や4位で紹介されるようになりました。「賢く収縮」は決してネガティブな取組ではなく、将来を見据え、まちのあり方を人のあり方に合わせていく未来に向けた反転攻勢です。

「お金で人を釣る」単なるサービスク合戦ではなく、ごもたちに過度な負担を残さないことも大切な「ごも応援」だと信じています。

町村週報主要索引

令和7年4月～令和8年3月
33315号～33354号

〈論 説〉

自治体に求められる二つのこと、「仕事
のあり方・仕組み等の見直し」と「人材
育成」～九州大学大学院法学研究院教授
嶋田 暁文 33340 (4)
大規模経営と「現代的個別経営」の併存
をどう構想するか？ 総合地球環境学研
究所 莊林 幹太郎 33345 (5)

〈活 動〉

「地方公共団体情報システム標準化に関
する緊急要望」について要請活動 33319 (2)
古口副会長が「こども政策に関する国と
地方の協議の場(令和7年度第1回)」
に出席 33319 (4)
吉田会長が「地方創生2・0に関する地
方団体との意見交換」に出席 33322 (2)
吉田会長が「国と地方の協議の場」に出席 33322 (4)
鈴木副会長が「令和7年度地域脱炭素に
関する国と地方の意見交換会(第1回)」
に出席 33322 (6)
「地域農政未来塾」を開講(第9期生)
―将来を展望した農業・農村政策を先行
できる職員を養成 33323 (2)

次期全国町村会長に棚野氏(北海道町村
会長・白糠町長)を選任 33325 (2)
「令和8年度政府予算編成及び施策に関
する要望」を決定 33325 (3)
令和8年度政府予算編成及び施策に関す
る要望―重点事項― 33325 (4)
令和8年度政府予算編成及び施策に関す
る要望 33325 (8)
吉田会長が「地方創生に関する地方六団
体との意見交換会」に出席 33326 (2)

会長代行に岩田氏(千葉県町村会長・東
庄町長)、鈴木氏(愛知県町村会長・大
岡町長)、池田氏(島根県町村会長・隠
岐の島町長)を選任 33328 (2)
棚野会長と鈴木副会長・会長代行が石破
内閣総理大臣等を表敬訪問 33329 (2)

「令和8年度政府予算編成及び施策に関
する要望」で要請活動 33329 (4)
井上財政委員長が地方財政審議会「地方
税制のあり方に関する検討会」ヒアリン
グに出席 33331 (2)
棚野会長が自由民主党総務部会関係合同
会議に出席 33332 (2)
棚野会長が「いわゆる「ガソリン」の暫定
税率」廃止に関する緊急提言」について
要請活動 33332 (3)

井上財政委員長が地方財政審議会「自動
車関係税制のあり方に関する検討会」ヒ
アリングに出席 33332 (4)
岩田副会長・会長代行と井上財政委員長
が「いわゆる「ガソリン」の暫定税率」廃
止に関する緊急提言」について要請活動 33333 (2)

令和7年度市区町村長、都道府県議
議長及び市区町村議会議長 総務大臣表
彰式挙行される 33336 (2)
棚野会長が自由民主党を表敬訪問 33338 (2)
棚野会長が地方財政審議会ヒアリングに
出席 33339 (2)
正副会長が自由民主党及び財務省を表敬
訪問し、意見交換を行う 33340 (2)

林総務大臣を表敬訪問 高橋総務副大臣
を表敬訪問 33341 (2)
黄川田地方創生担当大臣を表敬訪問 金
子国土交通大臣を表敬訪問 33341 (3)
松本デジタル大臣を表敬訪問 33341 (4)

棚野会長が「国と地方の協議の場」に出席 33341 (5)
防衛省及び環境省に対し、クマ類による
被害に関する緊急要請を実施 33341 (6)
棚野会長をはじめとする本会役員が「ク
マ類の出没及び被害の未然防止に向けた
対応にかかる環境省との意見交換会」に
出席 33341 (10)
井上財政委員長が自民党「予算・税制等
に関する政策懇談会」および公明党「予

算・税制改正要望等ヒアリング」に出席 33341 (12)
令和8年度政府予算編成で要請活動 33343 (2)
中島行政副委員長が「地方創生に関する
地方六団体との意見交換会」に出席 33344 (2)

デジタル創発塾修了式を開催 ―12名の
町村職員が修了― 33344 (3)
棚野会長が「国と地方の協議の場(令和
7年度第3回)」に出席 33345 (10)
美浦行政委員長が「こども政策に関する
国と地方の協議の場(令和7年度第2
回)」に出席 33345 (11)

本会役員が「自由民主党・公明党・日本
維新の会」無償化を含む、多様で質の高
い教育の在り方に関する検討チーム「意
見交換」及び「いわゆる教育無償化に
関する国と地方の協議の場」に出席 33345 (12)

鈴木副会長・会長代行が自由民主党「総
務部会関係・消防議員連盟合同会議」に
出席 33345 (14)
第34次地方制度調査会が発足―本会か
らは棚野会長が委員として出席― 33348 (2)
都道府県町村会正副会長長交流会を開催―
自治功労者68名を表彰― 33349 (2)
地域農政未来塾修了式を開催―第9期生
17名の町村職員が受講― 33353 (2)

〈政 策〉

学校教育の質の向上に向けた教師を取り
巻く環境整備 文部科学省 初等中等教

情 報

- 育局 財務課 3315 (2)
 - 給付の申請から振込までのプロセスを一気通貫でデジタル完結 ― 給付支援サービスのご紹介ー デジタル庁デジタル社会共通機能グループ給付支援サービス担当 木幡 健太 3316 (2)
 - 「スポーツ・健康まちづくり」に取り組みととする自治体を応援します！ スポーツ庁参事官(地域振興担当) スポーッ地域振興調査官 塚田 裕介 3317 (2)
 - 生涯現役地域づくり環境整備事業について 厚生労働省 職業安定局高齢者雇用対策課 3318 (2)
 - 地球温暖化対策計画の改定と新たな地域脱炭素ロードマップ ― 地域脱炭素? 0に向けてー 環境省大臣官房地域政策課長 近藤 貴幸 3320 (2)
 - 「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律の一部を改正する法律」の概要 環境省自然環境局 野生生物課 鳥獣保護管理室 3321 (2)
 - 改正基本法に基づく、初の食料・農業・農村基本計画の策定について 農林水産省大臣官房政策課企画専門職 伊藤 伸貴 3322 (7)
 - 特定地域づくり事業協同組合制度について 総務省地域力創造グループ 地域自立心支援課 課長補佐 富田 慶一 3324 (2)
 - 「経済財政運営と改革の基本方針2025」について「賃上げこそが成長戦略の要」 25〜26年度にPB黒字化達成 3327 (2)
- 森林経営管理法及び森林法の一部を改正する法律について 林野庁森林整備部森林利用課 3329 (6)
 - 普通交付税17兆8198億円 不交付団体は4年連続増 2025年度普通交付税大綱 3330 (2)
 - 令和7年度地域力創造施策について(地域おこし協力隊) 総務省地域自立心支援課長補佐 藤岡 茉耶 3332 (5)
 - 令和7年度地域力創造施策について② 地域活性化起業人について 総務省地域自立心支援課 課長補佐 宮川 天庸 3334 (2)
 - 霞が関で活躍する町村職員 提案募集方式の活用推進 内閣府 地方分権改革推進室 3335 (2)
 - 交付税2.0%増の19.3兆円 担い手確保、自治体DXを推進 2026年度総務省概算要求 3336 (3)
 - 保育の質向上で中核人材育成へ 一般会計は1.7%増の4兆3082億円 2026年度子ども家庭庁概算要求 3336 (6)
 - 「地方創生に向けたSDGsの推進について」 SDGs 未来都市を選定しました 他 内閣府地方創生推進事務局 3337 (2)
 - 34.7兆円で過去最大を更新 医療・介護の賃上げ焦点に 重要政策は年末に決定へ 2026年度 厚生労働省予算概算要求 3337 (6)
 - 子ども家庭センターの意義と役割 町村での設置・運営に向けて 3338 (3)
 - 庁支援局虐待防止対策課 3338 (3)
- 東京一極集中是正へ、人の流れ創出 20.0%増の2444億円 内閣官房・内閣府 2026年度地方創生関連予算概算要求 3338 (6)
 - コメの生産性向上に重点 農業構造転換集中対策は「別枠」 2026年度農林水産省予算概算要求 3339 (3)
 - インフラ老朽化対策に重点 19.0%増の7兆円 2026年度国土交通省予算概算要求 3339 (6)
 - 新たな土地改良長期計画について 食と暮らしを支える水と土の未来のために 農林水産省農村振興局設計課計画調整室 課長補佐 池谷 拓一 3340 (9)
 - 地方分権改革に関する提案募集方式 地域の課題を解決しよう 3341 (14)
 - 過去最大の総額6143億円超 システム標準化への対策は事項要求 2026年度デジタル庁予算概算要求 3341 (19)
 - これからの町村運営・地域経営と郵便局 郵便局における地方創生施策の新展開 日本郵便本社・執行役員(地域共創事業部担当) 竹中正博 同 地域共創事業部地方創生担当シニアアドバイザー(前全国町村会事務総長 武居丈一 3343 (4)
 - 「未来技術社会実装事業」のご紹介 関係府省庁の伴走型支援による未来技術を活用した地域課題の解決 内閣府地方創生推進事務局 金井 大輔 3344 (4)
 - 地域就職氷河期世代等支援推進交付金の募集について 3346 (2)
- 地方財政への対応等関係予算・政策の概要 3347 (2)
 - 地方財政対策と総務省 地方自治関係予算・施策の概要 3347 (5)
 - 厚生労働省 厚生労働省関係予算・施策の概要 3347 (24)
 - 子ども家庭庁 子ども家庭庁予算・施策の概要 3347 (29)
 - 国土交通省 国土交通等関係予算・施策の概要 3347 (32)
 - 農林水産省 農林水産関係予算・施策の概要 3347 (37)
 - 文部科学省 文教関係予算・施策の概要 3347 (47)
 - 経済産業省 中小企業・小規模事業者及び資源・エネルギー関係予算・施策の概要 3347 (50)
 - 環境省 エネルギー・廃棄物・リサイクル対策等関係予算の概要 3347 (52)
 - デジタル庁 デジタル庁関係予算・施策の概要 3347 (54)
 - 棚田地域振興法の改正について 農林水産省農村振興局農村政策部地域振興課 日本型直接支払班企画係長 桑田 利明 3348 (3)
 - 2026年度「地方創生SDGs課題解決モデル都市」の募集開始について 内閣府地方創生推進事務局 3349 (7)
 - 気象業務法及び水防法の一部改正について 国土交通省気象庁総務部企画課、水管理・国土保全局水政課 3350 (2)
 - 地方応援隊の取組について 国土交通省国土政策局総務課 農林水産省農村政策部農村計画課農村活性化推進室 3350 (2)

情 報

3351 (2)

林地における水資源涵養量(貯留機能)の簡易評価手法「見えぬ森林の働きを、数字で「見える化」」 林野庁 森林整備部 治山課 水源地治山企画班

3352 (2)

スポーツによる地方創生・まちづくり スポーツ庁 参事官(地域進行担当)

3354 (2)

〈随 想〉

屋久島のさらなる飛躍をめざして 鹿児島県屋久島町長

3315 (11)

未来をともに創るまちづくり ―町制20周年の節目に寄せて― 兵庫県多可町長

3316 (12)

スキーと温泉の町 青森県大鰐町長

3317 (12)

山田 年伸 自然とともに歩む大台町の未来 三重県大台町長

3318 (12)

大森 正信 原発がある町から、原発もある町に 佐賀県玄海町長

3319 (11)

脇山伸太郎 東郷町制施行55周年 未来へつないでい

3320 (11)

石橋 直季 愛知県東郷町長

3321 (12)

望月 幹也 外されていた梯子 山梨県身延町長

「対話」を大切にしたい町政をめざして 福岡県大刀洗町長

3322 (16)

中山 哲志 鳥取県日野町にぜひお越しください 鳥取県日野町長

3323 (12)

塔田 淳一 「束になって」わくわくする未来を 山形県舟形町長

3324 (19)

森 富広 興部酪農の小さな産業革命 北海道興部町長

3326 (12)

碓 一寿 新しい人の流れを感じる村 奈良県下北山村長

3327 (11)

南 正文 あるものに気づき、あるものを磨き、あるものと生きる 熊本県美里町長

3328 (11)

上田 泰弘 みんなでつなぐ夢おおい未来 神奈川県大井町長

3329 (12)

小田 眞一 『持続可能な茶源郷和束』そんな理想郷をめざして 京都府和束町長

3330 (12)

馬場 正実 消滅してはまるか! 「山・川・人」資源 活用への挑戦 新潟県阿賀町長

3331 (12)

神田 一秋 線路は続くよ、いつまでも 愛媛県松野町長

3332 (12)

坂本 浩 温故知新と幼き記憶

3333 (10)

谷川 正芳 未来へつなぐ、高知県北川村の挑戦 高知県町村会長・北川村長

3334 (12)

上村 誠 原子力政策と我が人生 山口県上関町長

3335 (12)

西 哲夫 町長としての理念とまちづくりへの思い 埼玉県ときがわ町長

3336 (12)

渡邊 一美 小さな村の大きな取組 長野県南相木村長

3337 (12)

中島 則保 希望あふれるまちへ 和歌山県印南町長

3338 (12)

日裏 勝己 小さな町の大きな挑戦 群馬県大泉町長

3339 (16)

村山 俊明 「文教のまち西原」の風景の移り変わり 沖縄県西原町長

3341 (24)

崎原 盛秀 夢に向かって一歩ずつ前へ 宮城県大和町長

3343 (16)

浅野 俊彦 魅力あふれる未来へつなぐまち 下郷福島県下郷町長

3344 (16)

星 學 能登半島地震からの復興に向けて 石川県穴水町長

3345 (20)

吉村 光輝 神集つ島神津島 東京都神津島村長

3346 (12)

前田 弘 郷土の偉人「孤児の父」石井十次と音楽「ミュージカル」から「慈善音楽幻燈会」へ「音楽の可能性」を巡る 宮崎県高鍋町長

3348 (12)

黒木 敏之 変革は辺境から始まる 島根県美郷町長

3349 (12)

嘉戸 隆 誰もが幸せに暮らせるまちをめざして 茨城県阿見町長

3350 (12)

3351 (12)

野上 武典 徳島県勝浦町長

3352 (12)

西嶋 久勝 福井県高浜町長

3353 (12)

榎 等 千葉県神崎町長

3354 (11)

青野 高陽 共創で開く地域の未来 岡山県美咲町長

3355 (11)

新井 隆 地域で育てる幻の桃「砂丘桃」 新潟県刈羽村

3356 (6)

三浦 隆 北海道小清水町

3357 (6)

明るく豊かで元気なひとづくり、まちづくり

3358 (6)

「フォーラム」

3359 (5)

3360 (6)

3361 (6)

3362 (6)

3363 (6)

3364 (6)

3365 (6)

情 報

- 〓和歌山県上富田町 33317 (6)
 - ふるさとで自らの未来を切り拓くことのできることも育成
- 〓鹿児島県喜界町 33318 (6)
 - 長野県南箕輪村 藤城栄文村長に聞く―地域おこし協力隊から村長へ―
- 〓長野県南箕輪村 33319 (5)
 - 人と自然、アートがつなぐ希望
- 〓熊本県津奈木町 33322 (11)
 - 飯綱町における廃校活用取組「いづなコネクト」について ―官民さまさまな主体が共同して廃校を地域づくりの拠点に―
- 〓長野県飯綱町 33323 (4)
 - 高知県梛原町における集落活動センターの取組
- 〓高知県梛原町 33324 (7)
 - 村の自然を守り続けていくために
- 〓長野県南相木村 33326 (4)
 - 住民が活躍し、自ら進めるまちづくり
- 〓山梨県身延町 33328 (3)
 - デジタルで住民サービス向上へ刈田町における取組
- 〓福岡県刈田町 33330 (4)
 - 新たな地域公共交通 予約型定額乗合タクシー「のりーね」の導入
- 〓山口県田布施町 33331 (3)
 - アウトドアなまちにするぞよー宣言した越知町の取組
- 〓高知県越知町 33333 (3)
 - 地域から地球を救う―大木町発、循環型社会モデル
- 〓福岡県大木町 33334 (6)
 - 地域BWAを活用した安全・安心なまちづくり
- 〓三重県木曾岬町 33335 (6)
 - 小さな町が叶える安心な子育て、確かな健康づくり
- 〓山形県三川町 33339 (9)
 - 大地とともに生きる大潟村
- 〓秋田県大潟村 33340 (13)
 - 「全村民幸福の村」の実現と「田園理想郷のむらづくり」
- 〓群馬県川場村 33343 (9)
 - 消滅可能性都市からの脱却その先の未来へ
- 〓神奈川県松田町 33344 (8)
 - 木曾川の恵みとともに暮らしやすく魅力あふれるまち
- 〓愛知県扶桑町 33345 (15)
 - 「競走馬の里」美浦村 観光資源を生かしたまちづくり
- 〓茨城県美浦村 33346 (5)
 - GO!GO!五ヶ瀬!! 町制施行70年 農業の将来を担う後継者や新規就農者を支援
- 〓宮崎県五ヶ瀬町 33348 (7)
 - 〓鹿児島県南種子町 33350 (5)
 - 幸せの花咲く「ひょうたん島」―水辺の記憶と都市の利便性が共鳴する、徳島県北島町の挑戦
 - 〓徳島県北島町 33351 (6)
 - 〓滋賀県竜王町 33352 (6)
 - 一人ひとりが輝き続ける魅力ある長島をめざして
 - 〓鹿児島県長島町 33353 (5)
 - 「人が人を呼ぶ」好循環をつくる 人口4,200人の町・厚真町が挑む、持続可能なまちづくり
 - 〓北海道厚真町 33354 (6)
 - 新任都道府県町村会長の略歴…33320、33322、33323、33325、33326、33327、33328、33330、33333、33346
 - 〓町村かわら版…33316、33324、33326、33328、33331、33336、33337、33338、33339、33350、33351、33353、33354
 - 〓町村ご当地キャラじまん…33315、33318、33319、33324、33326、33327、33328、33329、33330、33332、33334、33335、33337、33339、33340、33341、33344、33345、33346、33348、33350、33352、33354
 - 〓まちむらの魅力発信!…33340、33343、33346、33349、33353
 - 『過疎地域における地域産業の継承・発展に関する調査研究報告書 ―地域の暮らしと営みの持続的発展に向けて―』について 一般社団法人 全国過疎地域連盟
 - 令和6年度 公有物件災害共済事業の概要報告 33320 (7)
 - 令和6年度 町村職員生協火災・自動車共済事業の概要報告 33327 (5)
 - 町村通報主要索引(令和7年4月〜令和8年3月) 33354 (12)

情 報

活用してみませんか? 町村専用ページ「町村.com」

https://www.zck.or.jp/choson/

「町村.com」では、全国町村会の活動状況や中央省庁等の政策情報を随時提供しています。ぜひご活用ください。

「町村.com」は、町村関係者の方だけがご利用いただける専用ページです。

ログイン時のユーザー名とパスワードは、各町村にお知らせ(平成18年9月27日付)しております。お問い合わせは、全国町村会広報部(kouhou@zck.or.jp)までお願いいたします。

詳しくは Webへ お問い合わせはこちら





さまざまな「集いの場」を
演出いたします

広さと設備が多様な大ホールと、
3つの会議室がございます。
会議・研修、パーティーなどに
幅広くご利用いただけます。



和・洋食のレストランも
お気軽にご利用ください

全国町村会館には、
会議室・宴会場のほかに、
ふたつのレストランもございます。
お気軽にお立ち寄りください。



レストラン「ペルラン」



和食処「さいかち」

客室のご案内	SINGLE ROOM	シングル 119室	DOUBLE ROOM	ダブル 12室	TWIN ROOM	ツイン 18室
	和室もございますのでお問い合わせください。		※市町村職員共済組合等の宿泊施設利用助成券がご利用いただけます。			



ご予約・お問い合わせ

全国町村会館 (代表)

TEL.03(3581)0471

FAX.03(3581)0220

〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号 WebサイトURL <https://www.zck.or.jp/kaikan/>

会議・宴会予約

TEL.03(3581)6767

FAX.03(3581)6324

●全国町村会館
へのアクセス

- ・有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」3番出口徒歩1分
- ・丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩8分
- ・タクシー東京駅から約7分
- ・東京モノレール「羽田空港」より「浜松町駅」経由「有楽町駅」乗り換え、東京メトロ有楽町線「永田町駅」下車
- ・京成特急スカイライナー「成田空港」より「青砥駅」経由「押上駅」乗り換え、東京メトロ半蔵門線「永田町駅」下車

